男女共同参画・委員会企画 JOYFUL通信

入局後の離職を経て、復帰した現在思うこと

藤田医科大学岡崎医療センター
志貴 史絵

私は現在、在籍する医局の関連病院で時短勤務をしながら5歳と2歳の2児の母をしています。整形外科の常勤医は10名、2次救急指定病院として周辺地域の診療を担っている病院で、整形外科専門医取得に向けて研鑽を重ねています。

現在までの経緯は、2015年に藤田保健衛生大学（現：藤田医科大学）整形外科へ入局、翌年に第１子を出産しました。産休・育休を経て職場復帰をしましたが、2018年に家庭の事情により退職しました。退職後は専業主婦となり、後に第2子を出産しました。医局の関連病院の新設にあたり2020年に再び復帰をしました。ただ2年間の完全なブランクと、仕事と家庭・育児の両立に対して不安がありました。しかし自分の状況に教授が大きなご理解を示してくださったこと、また以前に大学病院で勤務していた時は妊娠中や産後復帰してからも、医局のスタッフから助けていただいた経験が多かったことにも後押しされて復帰に至りました。夫は家事・育児に理解がありますが、内科の勤務医のため実際の協力はあまり求められない状況であり、私自身は時短勤務を選択しました。また子どもの急病や昨今のコロナ禍により保育園が急に休園となり、突然欠勤になることも度々ありましたが、ご理解を頂いたおかげで勤務を続けることができ、日々感謝しております。

第一線で勤務されている皆さんと自分とを比べて焦ることもしばしばあります。しかし今できることに真摯に取り組み、今後のキャリアに生かすため研鑽を積むよう心掛けています。

母親とキャリアの両立は決して簡単なことではなく、私のように妊娠出産を契機に離職してしまうケースもあると思いますが、外科系はその特性上、長期のブランクは復帰のしづらさに大きく影響すると感じました。昨今「女性で」「整形外科医で」というだけでは一括りにはできず様々なスタイルがあり、そういった多様性の中で活躍できる現代があるのは、先輩方の並々ならぬ努力の賜物であると思っています。若手医師の方にはぜひ、キャリアの継続に悩んだ際には離職ではなく、細々とでも勤務できる方法を模索することをお勧めします。また今後はその多様性が女性医師だけでなく、男性医師にも必要とされるケースも増えると思います。自身が今まで周りのスタッフに助けていただいたように、今度はサポートする側になりたいと思っています。自身の一経験による意見ではありますが、同様の悩みを抱える若手医師に少しでもエールが届きますようにとの願いと、現在までご指導くださった方々への感謝の思いをお伝えできれば幸いです。